

2015年度予算要求の回答書(その8)

2015年度(平成27年度)予算要求書の回答です。今回は4. いつまでも住み続けられるまちづくりを④～⑧です。

4. いつまでも住み続けられるまちづくりを

④ 市内全域でのバリアフリー化を計画的に進めること。

歩道等の整備に当たっては、高齢者・障害者等が利用しやすいようバリアフリー化を考慮し、引き続き、安心・安全な道路環境の整備に努めてまいります。

(道路整備課)

⑤ 市民の足を確保するため、市の責任で、デマンド交通等を導入すること。

路線バスやコミュニティバスにはない「ドア・トゥー・ドア」に近いサービスを実現することができるデマンド交通は、魅力的な交通サービスであると認識しております。

また、本市におけるコミュニティ交通の導入につきましては、地域における理解や運行における採算性などを十分調査し、事業として成立する場合において、導入に向けた予算化を検討することとしており、今後におきましても地域の実情に即した交通が実現できるよう、研究してまいります。

(企画政策課)

⑥ 違法駐輪をなくし、現在運営している市営自転車駐車場での定期利用を増やすためにも、「通りに一つ駐輪場」を目指して、整備すること。

新たな自転車駐車場の整備につきましては、用地等の取得が難しい状況ですので、現状運営している市営駐輪場の収容

台数の増設等の活用や、市街地再開発事業と合わせた整備について、現在、検討を進めております。

(くらし交通安全課)

⑦ 中間処理施設については、安全性、経済性を考慮して決定すること。

厚木愛甲環境施設組合が整備する新ごみ中間処理施設につきましては、その構成自治体である本市と愛川町、清川村で連携を図りながら、環境性、安全性及び経済性を考慮し、施設の整備内容について検討を進めてまいります。

(環境事業課)

⑧ 太陽光発電システムなど、自然エネルギー(再生可能エネルギー)発電の推進を引き続き図ること。

市では、平成26年3月、地域の特性を活かしたエネルギー政策について「あつぎ元気エネルギー構想実行計画」として取りまとめ、現在、創エネの取組である太陽光発電システムの普及促進を図っているところです。

各家庭においては、スマートハウス導入奨励金制度やゼロ・エネルギー・ハウス導入奨励金制度を通じてスマートハウスの導入を支援するほか、本市独自の取組として、市内の遊休地などに太陽光発電の普及を促進する「太陽光発電事業用地情報提供制度」を通じ、民間活力による太陽光発電事業の誘致を推進しております。

また、災害時において防災拠点となる公共施設に対し、計画的に太陽光発電システムを設置しております。

今後におきましても、同実行計画に基づき、引き続き、積極的に取り組んでまいります。

(環境政策課)

スマートインターチェンジ
接続形式や効果は

スマートインターチェンジ(スマートIC)は、高速道路に設置されるETC専用の簡易なICで、サービスエリア・パーキングエリア接続型と本線直結型があります。

廿日市市では、宮島スマートICの本格供用により24時間化、大型車両も通行できるようになり、想定以上の通行量となったとのことでした。

サービスエリアICの脇に一般車の駐車場もあり、商業施設や宿泊施設も利用できます。

12・13日にインターチェンジ整備について、広島県廿日市(はつかいち)市に行ってきました。栗山香代子議員が参加しました。

廿日市市は、広島県の西部にあり、西に山口県、北に島根県、東は広島市、南は瀬戸内海。

市政施行は昭和63年、平成の大合併で3町1村が加わり、面積は4万8948平方キロメートル、人口11万7千人強で議員定数は30、市の花はさつき。世界遺産の宮島・厳島神社があり、けん玉発祥の地で、お土産にはもみじ饅頭がおすすめです。

スマートインターチェンジ(スマートIC)は、高速道路に設置されるETC専用の簡易なICで、サービスエリア・パーキングエリア接続型と本線直結型があります。

廿日市市では、宮島スマートICの本格供用により24時間化、大型車両も通行できるようになり、想定以上の通行量となったとのことでした。

サービスエリアICの脇に一般車の駐車場もあり、商業施設や宿泊施設も利用できます。

施設も利用できます。

今後の課題として、サービスエリアを中心とした地域活性化の施策を研究することであると説明がありました。

廿日市市役所で、説明と質疑応答の後、高い位置にある現地に行きました。

SAからは厳島神社の朱い鳥居が見え、駐車場の南面の斜面の緑地で山菜採りをしているらしい女性もいて驚きました。

厚木とは条件がだいぶ異なるものの、スマートICは全国に開通済みが77か所、整備中は68か所。そんな中でも隣の広島市への通勤者が多く、世界遺産を持つ自治体にあるサービスエリアへ接続するスマートICは、効果が大きいように思われました。

2つのスマートインターを比べてみると…

	宮島スマートIC	厚木スマートIC
整備形式	サービスエリア接続	パーキングエリア接続
経過	H19年5月 国交省へ社会実験申請 H20年3月 社会実験開始 H21年4月 本格供用開始	H26年8月 接続許可 今後は中日本高速道路、警察等との協議 その後、実施設計、着工。 供用開始はH30年度の予定
効果	①山陽道へのアクセス向上 ②通勤交通の利便性向上(平日利用の5割) ②業務交通の効率化(平日利用の3割強) ③観光交通の利便性向上(休日利用の6割) ④救急搬送(消防活動の迅速化)	(期待される効果) ①企業誘致 ②アクセス性の向上 ③救急医療機関への速達性 ④産業の促進 ⑤交通の円滑化

さて、厚木では、いろいろ想定されていますが、実際の効果がどれほどになるのでしょうか。